

聴覚障害リハビリテーション治療学演習

[演習] 第1・2学年 後期 選択 2単位

《担当者名》才川悦子 saikawa@hoku-iryo-u.ac.jp

【概要】

聴覚障害者リハビリテーション治療学特論で学習する理論的基盤を実践するための実技的学習を行う。

【学修目標】

高度臨床専門職として必要とされる聴覚障害の評価、リハビリテーションを実践するために、実技の習得に特化した演習を行う。

1. 純音聴力検査の再現性を誤差10dB以内まで高める。
2. 詐聴、認知障害等検査困難例について、適切な補助的手段を用いて正確な聴力図を作成できる。
3. 成人聴覚障害者について理論に基づいた補聴を行える。
4. 小児難聴に対して適切な聴覚補償と、聴覚的、発達心理的に適切なリハビリテーションを行える。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	オリエンテーション	講義位置づけと進め方について説明し、2回目以降の作業内容を調整する。	才川悦子
2) 8	難聴・言語発達検査と診断	聴力検査の演習と各評価の実際を学ぶ。 検査結果から適切な聴覚補償手段・(リ)リハビリテーション手法についてディスカッションする。	才川悦子
9) 15	臨床見学	病院難聴外来ならびに言語治療室における聴覚障害診療の実際を見学し、症例の臨床的問題点とその解決策に関するレポートを提出する。	才川悦子

【授業実施形態】

面接授業と遠隔授業の併用

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】

レポート 50%

ディスカッション 50%

【教科書】

なし

【参考書】

日本聴覚医学会：聴覚検査の実際。南山堂 2017

小寺一興：補聴器フィッティングの考え方。診断と治療社。2010

【学修の準備】

予習は、関連の文献等関係資料を各自調査し学習すること（80分）

復習は、プリント、講義メモを活用して学習を深めること（80分）

【実務経験】

医師

【実務経験を活かした教育内容】

医療機関での実務経験および大学における教育・研究経験をもとに講義・指導する。